

背景

- 舞鶴市においても、若年層の投票率向上が課題となっており、将来の政治参加を促すきっかけとなるような主権者教育に取り組む必要があった。

事業の概要 〈開始年度：H27～ R3実績：1校（25名）で開催〉

○役割カードを用いたロールプレイによる模擬選挙

- ・平成27年度以降、市内中学3年生を対象に架空の市長選挙を争点に模擬選挙を実施。
- ・年代・性別が記載された「役割カード」を生徒に配布。
- ・選管職員及び教育委員会が候補者となり、市の総合計画から抜粋した課題について、①高齢者目線②若者目線③子育て女性目線に分類した公約を掲げて実施。
- ・生徒は役割カードの人物になりきって、選挙公報を読み候補者の演説を聞き、カードの人物が求める施策などを想像しながら投票。
- ・開票後、各年代の投票者数などから、気づいたことや感じたことを選挙の結果を踏まえながら話し合ってもらい、政治参加の意義や必要性について考えてもらう。

〔▼役割カード〕

〔▼候補者選定の様子〕

〔▼開票後のグループ分け〕



工夫・注意点

- 入場券、模擬投票用紙、ポスター掲示板、選挙公報等を作成し、実際の選挙の投票箱や記載台を使用する等可能な限り実際の選挙に近づける。
- 役割カードの配布割合は、直近の選挙の年代別投票率の割合と同じになるよう用意し、選挙結果が偏らないよう配慮。
- 開票後に話し合う際には、役割カードの年代別にグループ分けすることで、ほかの年代に比べて若年層の投票者数が少ないことを視覚的に実感してもらう。

事業の効果・今後の展開

- 模擬選挙は、生徒の反応も良く熱心に取り組み、アンケート結果からも選挙や政治に関心を持つきっかけになっている。
- 小・中学校からの体系的な主権者教育の充実に向けて検討を進めている。